

投稿日:2020年07月29日

タイトル:セミと地球温暖化



17時 30分 23.2℃ 天気:曇り

こんにちは。九州地方をはじめとして今年は前例のない豪雨災害が発生しています。東北山形県の被害状況のニュースでサクランゴ畑に水が浸かってしまった残念な状況が報道されていました。㊦低いところに浸水するから標高の高いところは安全か、と言ったところで同じ標高を下る川の堤防が決壊するとやはり危険なのです。災害に遭われた地域の方々にお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復興をお祈りします。

今日はセミの生息と地球温暖化のきざしを八ヶ岳からの視点で見たいと思います。

川崎市八ヶ岳少年自然の家が八ヶ岳に設置されたのは今から43年前の1977(昭和52)年です。「自然の家のできた頃の夏」 セミと言えば蝦夷(えぞ)ゼミ(北海道・寒いところに生息)やヒグラシ、暑い時にはアブラゼミが鳴き生息個体は標高の高い高原でした。それが10年ほど前になると標高600mほどの釜無溪谷で基本平地に生息するミンミンゼミの声を聴き数年前では1000m程の富士見駅周辺、さらに2年位前から少年自然の家1226mでミンミンゼミが鳴いているのです。

「ぶどうで作られるワイン」 お隣山梨県の産地では、ヨーロッパ同様平均気温が上がりぶどうの糖分、酸味のバランスが崩れて今までの味にならない事があるようです。近年ではより標高の高い北杜市、ここ富士見町でもワイン用ぶどう畑が作られるように

なりました。平均気温データを調べてみると一見さほど変わらない様に見えます。



ヤナギランが咲くと梅雨が明けると言われています。今年はそのヤナギランの成長その物がよくなくて花の気配があまりありません。来年こそはうす紫色のきれいなヤナギランの様子をお伝えできるよう観察を続けます。

私たち人類は、森林を伐採し石油石炭を燃やしました、そして南極の氷が解けています。

寒くない冬、スキー場に雪がない、氷も張らない・観測史上例のない夏の集中豪雨災害、夏が昔より暑い。こんな言葉を毎日のように耳にします。二酸化炭素などの温室効果ガスの増大による地球の温暖化が原因と言われています。それは数年ごとの寒暖の差ではなく日本の平均気温が100年あたり1.16℃の割合で上昇している現実と一致します。

温暖化の冬の雪不足でいつもは地面にしみ込むはずの水は夏の大雨で地表を流れてしまう為、湧水量の減少で飲料水の確保も困難になります。思い当たるようにさまざまな感染症の流行などの要因ともなるようです。

星の解説でも言われますが宇宙のなかで私たち人類はほんの小さな存在です。このままだと地球環境の変化による平均気温の2.5℃ほどの上昇で私たちを含む動植物20～30%が滅亡してしまう事も予測されています。

(ま)